

場 所		分 類		被ばく低減対策好事例集			
原子炉建屋内	RB	Y, G	1, 3, 6			① 時間	番号
タービン建屋内	TB					2 距離	
R ZONE	R					③ 遮へい	
Y ZONE	⑤ Y					4 線源の除去	
G ZONE	⑥ G					5 遠隔、ロボット化	
その他	Z					⑥ 汚染拡大防止	
( )				7 その他			
内 容		ボーリング調査時の被ばく低減対策とコンタミネーション防止対策					
作業場所		福島第一原子力発電所構内全域（特に2, 3号機海側及び旧汚染水タンク群近傍）					
概 略		ボーリング調査中の被ばく低減対策として、線量監視と手の防護、避難体制を確立・運用している。また、汚染されていない地層をボーリングで汚さないよう、コンタミネーション防止対策を行っている。					
評 価 (定性・定量)	効 果		対策前	対策後			
		被ばく線量(mSv)	—	—			
		人工数(人日)	—	—			
事例詳細							
<p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1F構内では、2, 3号機海側や過去に汚染水が漏洩したタンク群近傍等で、地盤や地下水が汚染されているエリアがある。それ以外でも、過去の工事で旧表土の汚染が発見された場所もある。</li> <li>・ボーリング調査は、その機械構造と作業特性上、試掘、掘進（泥水循環、試料採取他）作業中に、人が土や地下水（泥水）に接近・触れてしまう。そのため、旧表土・地盤・地下水が汚染されていた場合でも、ボーリング技術者の被ばくを低減できるよう、線量監視と手の防護を行うとともに、万一の場合の避難体制を確立している。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>旧地表線量測定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>採取試料線量測定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>厚手ゴム手袋着用</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コンタミネーション防止対策</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地表および汚染された土壌、地下水の放射性物質を、下位の汚染されていない地層に移さないよう、コンタミネーション防止対策を実施している。</li> </ul> <p>○効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に、高線量の地盤に遭遇した事例が複数あるが、被ばく低減対策を徹底することにより、ボーリング技術者の過剰被ばくは発生していない。</li> <li>・ボーリング調査が原因の地層汚染は確認されていない。</li> </ul>							

編集：応用地質㈱